

鉄道を応援したい鉄道写真家 × 魅力的な風景の発信で地域愛を高めたい鉄道 のコラボ
応募作品 401 点からプロ写真家に選ばれた 24 点の入選作品

「近江鉄道 2023 (カレンダー) フォトコンテスト」表彰式を開催

近江鉄道株式会社（本社：滋賀県彦根市 代表取締役社長：飯田則昭）は、写真家の視点で再発見した美しい鉄道風景を発信することで、地域愛を高め鉄道の存続に繋げていくことを目的に企画した「近江鉄道 2023 フォトコンテスト」を実施し、プロ写真家の吉永陽一氏による審査での大賞 1・自然賞 7・鉄道施設賞 2・車両賞 3 の計 13 点が選考され、近江鉄道社長・社員による選考で近江鉄道賞 1・路線図賞 10 点が選考。総計 24 点が入賞しました。

11 月 28 日に近江鉄道本社で開催された表彰式では入賞者の内 15 名が集まり、代表取締役社長の飯田より各賞を授与し感謝を伝え、審査員の写真家吉永氏の講評も披露され、応募者同士のコミュニケーションの場も設けられました。入賞作品 24 点が収録された『近江鉄道カレンダー 2023』は、近江鉄道主要駅（米原駅・彦根駅・八日市駅・近江八幡駅・日野駅・貴生川駅）・株式会社平和堂 アル・プラザ彦根、ピバシテイ平和堂、アル・プラザ近江八幡、アル・プラザ八日市、アル・プラザ水口の 5 店舗・通信販売でお買い求めいただけます。（詳細は別紙のとおりです。）



フォトコンテスト大賞作品



SUN	MON	TUE	WED	THU	FR	SAT
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

※ 近江鉄道株式会社

カレンダーイメージ

【別紙】

●近江鉄道フォトコンテストとは

『近江鉄道のある風景』として近江鉄道と自然、街並、鉄道施設の応募作品の中から、大賞1、自然賞、車両賞、鉄道施設賞、ジュニア賞（15歳以下 該当なし）、近江鉄道賞1などの入選作品14点と沿線5市5町で撮影された10点を路線図賞として設定。全応募作品400点のうち24点が選定された。

<審査員> 写真作家 吉永 陽一氏

1977年東京都生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業後、建築模型製作スタッフを経て空撮会社へフリーランス登録。空撮のキャリアを積む。2004年、有限会社福聚（ふくじゅ）設立。約10年前より長年の憧れであった「空撮鉄道写真」に挑戦し、「空鉄（そらてつ）」で注目を集める。空撮はもとより、旅や鉄道等の紀行取材も行い、陸空で活躍中。ライターズネットワーク会員、日本鉄道写真作家協会（JRPS）会員、鉄道文化振興会名誉会員、日本写真家協会（JPS）会員。 書籍・もっと空鉄・空鉄今昔・空鉄の世界・空撮鉄道 機関車



●<大賞> 朝靄の川面 審査員講評

応募作品は沿線風景、町並み、車両、駅など、近江鉄道の魅力を十分に伝える作品が多く集まった。定番スポットの中でも秀作がいくつかあった中で、派手さはないもののじわじわと引き寄せられ、忘れられない作品が「朝靄の川面」である。

朝靄がたちこめる川面と山間に架かる鉄橋。その姿は静寂に包まれている。遠くからジョイント音が近づき、静寂を切り裂いて電車が鉄橋を豪快に走る轟音が響く。その光景が一枚から伝わってきた。何気ない秋の朝日を浴びた一コマ、モヤが立ち込めた川面を狙うことで、静寂だけでなく、早朝の気温差をも感じとることができる。

日野川に架かる鉄橋付近は木々が茂り、切り取りかたによっては山間部のようにも見える。近江鉄道は平野部の広々とした光景をイメージするが、沿線にはこんな一面もあるのかと再認識した。朝靄が無ければ、そこまで力強い作品にならなかったかもしれない。自然が織りなす刹那の姿と電車のタイミングを捉えた傑作である。



応募者コメント 森村 光辰様

数ある写真の中から、私の写真に目をとめていただき大変光栄でございます。連絡を頂きました時は、家族で信じられない結果に驚いていました。私にとっての近江鉄道は、幼いころは家族でお出かけしたり学生時代は通学など大変お世話になった特別な乗り物でした。個人の様々なドラマを乗せて走る近江鉄道を、沿線の素晴らしい景色とともに写真に残したい思いから撮り始めました。



●車両賞 1月 雪煙を上げて 審査員講評

雪のシーンはいくつか候補に上がったなかで、この一枚が一番力強くグッときた。普段はのどかな田園地帯の直線区間だが、いったん雪が積もると凍てつく世界へと一変する。うっすらと雪化粧した800系が雪原を駆け抜け、降り積もった雪が車体を覆いながら舞う。ドラマチックな一瞬である

応募者コメント 中田 篤二様

この日は前日からの雪が積もっており、列車通過時に線路や屋根の雪が舞い上がり、躍動感のある写真が撮れました。今回で、近江鉄道カレンダーに載せてもらうのは3回目になります。これからも、季節感のある作品を撮り続けたいと思います。



●車両賞 7月 緑の車窓を走る 審査員講評

見たところ誰もいない車内。800系はモーターを唸らせ、夏の盛りとなった濃い緑の中を颯爽と走る。この次の駅で人が乗ってくるのだろうが、今いるこの瞬間は車内に誰もおらず静まり返っている。それとは対照に両窓の外はビュンビュンと緑が過ぎ去っていき、静と動が織り混ざった空間に目が引いた。

応募者コメント 山口 智紀様 今回、入賞したことは撮り鉄冥利に尽きます。近江鉄道には何度も乗っていますが佐和山トンネル周辺は好きな車窓の1つで、電車の揺れや音が伝わればと思い撮りました。これからも趣味を楽しみ精進してまいります。



●車両賞 12月 毛嵐 審査員講評

沿線は田園風景が多く水鏡と電車の作品は多い。電車のフォルムが鏡面に映る姿は幻想的だ。2両編成というのもちょうどいい長さである。数ある水鏡の中で目を引いたのは、田植えとは程遠い12月である。早朝の線路沿いの農業用水は、淡い朝日に照らされてモヤが発生し、タイトルにある毛嵐のような光景に包まれる。冷え切った空気を切り裂きながら100形が駆ける姿は、冬の朝らしいコマである。



●鉄道施設賞 2月重厚茜色 審査員講評

愛知川橋梁は1898年に架橋されたイギリス製ポニーワーレントラスで、登録有形文化財である。川沿いという限られた場所で明治製のトラス橋の重厚さを表現するのは少々考える。夕焼けの陰影を使って特徴的な「J」型の補強材を強調し、石積みの橋脚も意識しつつ、走り去る列車のテールライトが浮かぶ。明治後期の現役橋梁の重厚さを表現しながら哀愁の空気も伝わってきた。



応募者コメント 土川 雅永様 他、路線図部門入賞 甲良町 晩冬ブルーを行く青電

この度は2023年カレンダーに採用頂きありがとうございます。大変うれしく感謝しております。ベストショットを得るため同じ場所に何度も通い、天候の変化と戦いながら撮影してきた甲斐がありました。



●鉄道施設賞 10月 スポットライト 審査員講評

現役を引退し、今は工事用列車の牽引役として活躍する220形。最終列車はとくに終わった深夜3時前、工事列車が人知れず走り去っていく。誰もいない街角で待ち、街灯で照らされた瞬間を狙う。鉄道の運行を影で支える列車にスポットライトが当てられた瞬間と、眠りについた街並みをうまく構成し、この列車を主役にする。計算し尽くされた絵作りに引き寄せられた。



応募者コメント 尾本 雄基様

今回、普段撮っている近江鉄道、そして追い求めている220形226号で入賞することができて本当に嬉しく思っております。走る機会が減少し、226号を撮影することが困難になっていますが、今後も追い続けられる限り撮りたいと思っております。



社長賞 カレンダー裏表紙 夏空を駆ける赤電

社長賞ならびに路線図賞は全作品の中から、近江鉄道代表取締役社長 飯田則昭をはじめ、有志社員による投票により選定されました。



応募者コメント 送付いただいた方の全文

自然賞 カレンダー3月 碧い世界 東 由紀子様 今回のフォトコンテストで入賞の連絡を頂いたときは初めての受賞だったので、飛び跳ねるぐらいにとても嬉しく思いました。私は趣味で鉄道風景写真撮影をしていますが、近江鉄道沿線には四季折々、どの路線にもステキな風景が広がり、その中に色とりどりの近江鉄道の車輛が上手く溶け込んでいて、その風景に癒やされながら撮影を楽しんでいます。これからも四季折々の近江鉄道沿線の風景を楽しみつつ撮影をしていきたいと思ひます。



自然賞 カレンダー4月 桜の向こうの笑顔 森 美絵様 大好きな近江鉄道さん。地元で走る鉄道で、季節それぞれ見せてくれる鉄道風景はよき風景であり多くの方に見てもらいたい景色。カレンダーの1ページを自分の写真で飾れる嬉しさは特別なものです。



自然賞 カレンダー5月 麦秋の候 若林 武司様 定年を機にカメラを始め、近隣のふるりの自然を撮り続けています。とくに、電車が走る沿線の春夏秋冬の美しさを、心に残るふるりの風景として、ガチャコン電車と共に、これからも撮り続けて行きたいと思ひます。

自然賞 カレンダー6月 ホタル舞う宵に。麦秋の候、他、路線図部門入賞 米原市 秋色、路線図部門入賞 日野町 ダレカニミセタイソライロ 石黒 義章様 鉄道誌への誌面掲載写真の撮影につきましては見栄え良い写真で掲載することができるように心がけ撮影し出版社へ原稿入稿しております。フォトコンテストに参加する写真撮影につきましては、近江鉄道の魅力が伝わるように、近江鉄道を撮影してみたい！近江鉄道に乗ってみたい！と思ひただけのような近江鉄道の沿線風景が伝わる撮影を「鉄道カメラマン目線」で！と思ひしております。



自然賞 カレンダー8月 夏のガチャコンと新幹線 郷 陽祐様 今回はなんとなく応募した結果、思ひ掛けず入賞してしまい、自分自身大変驚いております。写真は広角で田んぼと近江鉄道をダイナミックに撮ろうとしたところ、偶然新幹線が横切つてこの様な作品になりました。



自然賞 カレンダー9月 乙女の純真 京田 貴宏様 選考いただいた審査員の方々並び先生に深くお礼を申し上げます。今作品は、自分らしさを表現できた一点です。題名もコスモスの花言葉を引用、イメージに近い仕上がりで満足しております。乙女らしさと夕陽に照らされたコスモス、可愛らしい近江鉄道が伝われば幸いです。



路線図部門入賞 多賀町 雪降る多賀線 中村 義宣様 私にとっては見慣れた近江鉄道のある風景を、心ときめく世界に変えるべく日々撮り歩いています。これからも地元を走る近江鉄道を撮り続けていきたいと思ひます。



路線図部門入賞 近江八幡市 陽の光、色づく景色 中村 考利様 水田に映る朝日野駅。ノスタルジックな鳥居本駅や新八日市駅。可愛いツバメが来る日野駅。コスモスが綺麗なあかね線。田園風景が広がる沿線に木製架線柱も！素敵な被写体が多く存在する近江鉄道が大好きです。

路線図部門入賞 甲賀市 巣立ちゆく春 廣瀬 弘明様 この度は2023年フォトコンテスト路線図部門で入賞させていただくことができ近江鉄道沿線で生まれ育った私にとって大変うれしい気持ちでいっぱいです。時代の流れと共にあらゆるものが変化を遂げていく中で、電車に乗って駅に降り立つと幼かったあの日にふとかえっていくかのような郷愁が、近江鉄道に親しみを感じることができる魅力であると大いに感じております。これからもこの鉄道が未来に向かってひたすら歩いていく姿を乗車や撮影を通じて見届けていきたいです。



路線図部門入賞 彦根市 大雪の日 遊川 清様 この日は冬型の気圧配置が強まる、との天気予報を信じて、神戸から彦根へ直行、到着すると一面の銀世界でした。しんと降り続く雪の中、彦根駅構内の車両たちがいつもと違う印象で佇んでいました。

●「近江鉄道カレンダー2023」

『近江鉄道カレンダー2023』は、プロ写真家の吉永陽一氏を審査メンバーに迎えた「近江鉄道2023フォトコンテスト」の入賞作品24点が収録されており、写真家の視点で美しい近江鉄道沿線風景の魅力を発信、沿線5市5町の魅力が詰まった月めくりカレンダーとなっております。

【発売日】 2022年10月1日（土）

【発売場所】 近江鉄道主要駅（米原駅、彦根駅、八日市駅、近江八幡駅、日野駅、貴生川駅）、平和堂5店舗にて10月中旬より文具売り場で発売（アル・プラザ彦根、ピバシティ平和堂、アル・プラザ近江八幡、アル・プラザ八日市、アル・プラザ水口）、イベント販売、通信販売、

<通信販売> 下記リンク先の通信販売フォームよりお申込み。

<https://www.ohmitetudo.co.jp/railway/fan/goods/calendar/2023/>

カレンダー金額（1,000円）＋送料（全国一律350円）

※上記は1部購入の場合の金額です。複数部ご注文される場合や他のグッズとの購入は通信販売フォーム入力後、弊社からメールにて送料をお知らせします。

※お支払方法は銀行振込もしくは現金書留となります

発売部数 770部 ※売り切れの場合もございますので、あらかじめご了承ください。

発売価格 1,000円（税込）

商品概要 オールカラー 見開きB3判（巻末の路線図に魅力ある沿線市町での作品を紹介）

●お客さまからのお問合せ先

近江鉄道株式会社 鉄道部鉄道営業課 TEL.0749-22-3303（平日8:40～17:20）

以上